

定義付け 次のステップへ

大学1年生の時、何気なく読んだ全集に入っていた1編です。理解したつもりになっていた「死」や「幸福」などの言葉に明快な定義付けがされ、自分のあいまいさを教えてくれました。

それからは、何事にも自分なりの定義付けをし、定義に基づいて物事をみることになっています。AMDAでは、「平和」を定義付けています。30か国に支部を置き、民族も環境も多岐にわたるため、必然的に平和像も異なります。そこで、誰もが共感する「今日の家族の生活（食と健康）と明日の家族の希望（教育）が実現できる状況」としました。平和を妨げるのが戦争、災害、貧困。定義付けをした結果、平和のために何をすればよいのか、次のステップが見えてくるのです。

私のお気に入り

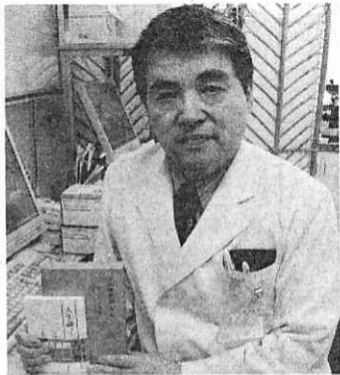
「人生論ノート」

三木清著 新潮文庫

国際医療NGO「AMDA

(アムダ)グループ代表

菅波茂さん 62



今、定義付けをせず、言葉が「何となく」使われていることが多いように感じます。それでは議論をしてもずれが生じ、次に進めない可能性が高いのではないのでしょうか。物事の見方を考えさす1冊です。(談)